



日本成長戦略会議
AI・半導体WG 第二回
～AI分野における個別論点補足資料～

2026年4月3日

株式会社ABEJA

代表取締役CEO 岡田 陽介

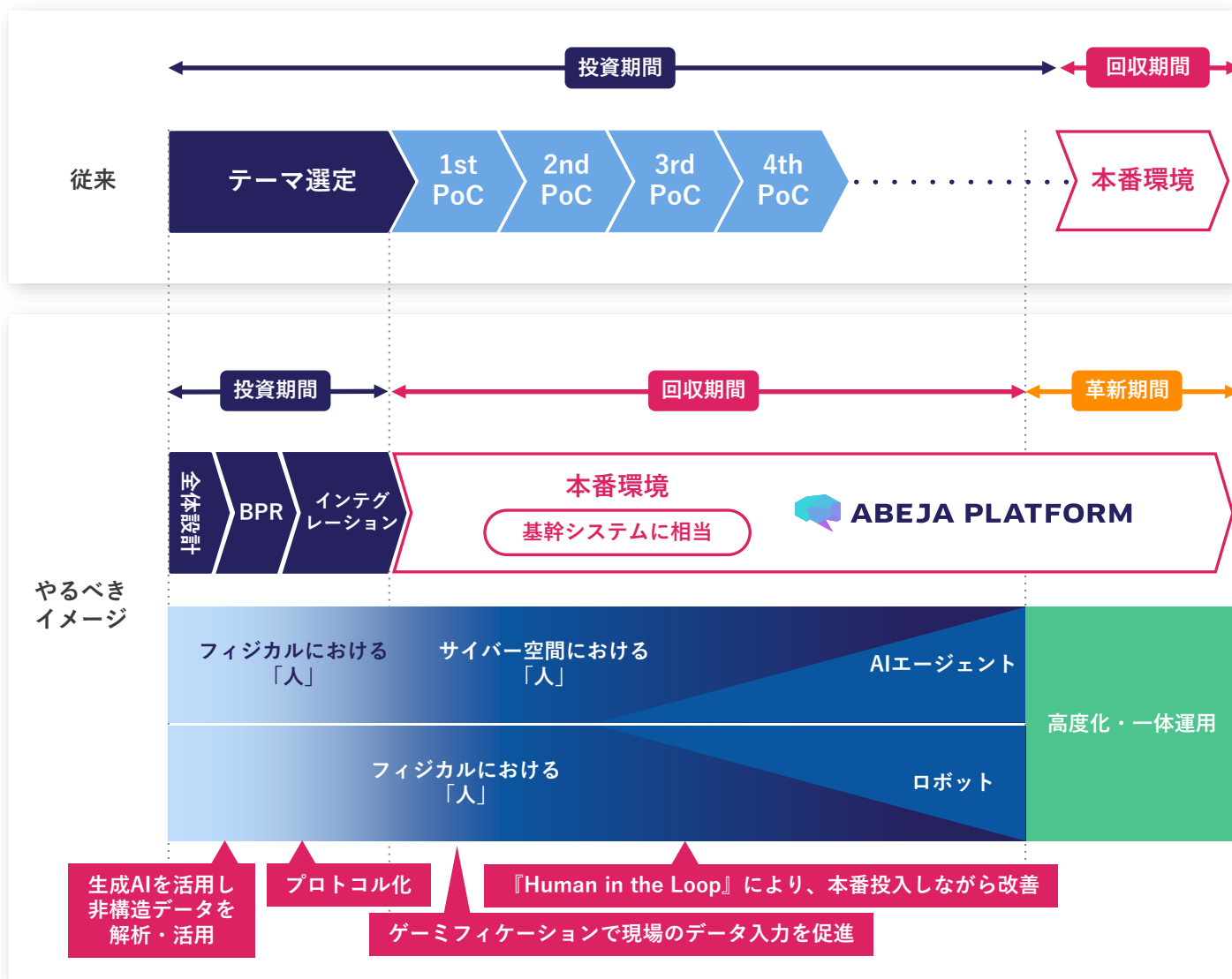
AIロボティクス戦略における重要論点

AIを前提としたBPR（プロトコル化）

- 既存プロセスへの後付けではなく、AIやロボットが主担当となることを前提に全業務プロセスを見据えたプロトコル化が重要
- 例えば、家事における「トイレ掃除」について、やり方は無数に存在している中で、どのように具体的に行うかを定義していく必要がある

人とAIの協調「Human in the Loop」

- 人が支援しながら段階的にAIへ移管する「人とAIの協調」により、初期段階からAIを本番環境で運用できるゼロPoC（概念実証）を実現することが重要



※プロトコル化：現場の「暗黙知」も含めて標準化された手順や規約を作成し、導入、運用するプロセス。AIやロボットが処理・学習できるデータとして定義・整理する作業を指す。

※ゲーミフィケーション：ゲーム感覚で自発的かつ継続的なフィードバックを促進する動機付けの仕組み

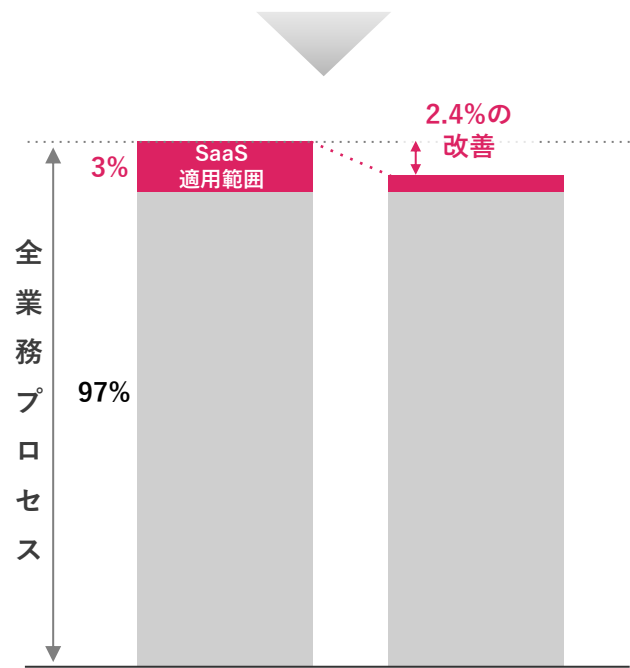
— パーティカルAIの重要論点

● 部分的なプロセスへのSaaS導入の限界

- 全業務プロセスのうち、部分的なプロセスにSaaSを導入し効率化しても、全体での改善は限定的
- 複数のSaaS活用は、ツール間の連携コストを増大させ、全体最適を阻害

部分的なプロセスへのSaaS導入

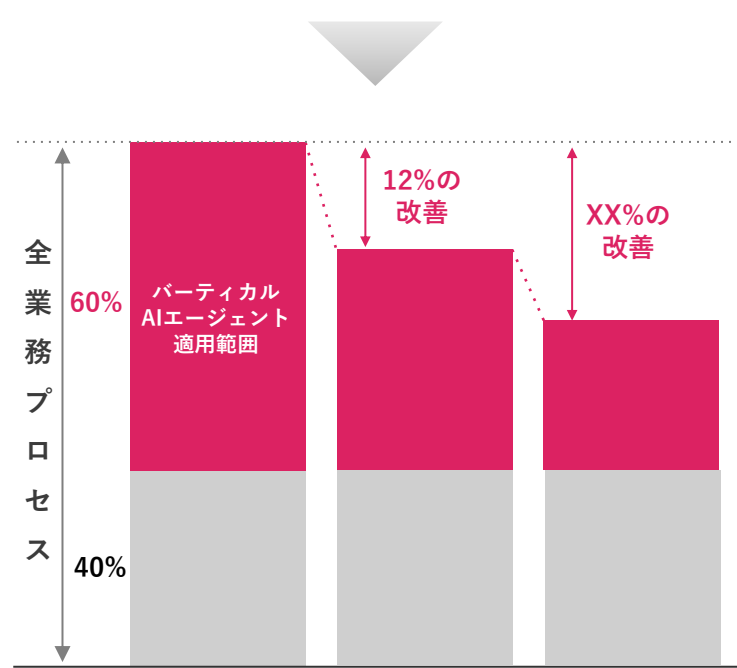
全業務プロセスの3%にSaaSを導入し、80%改善しても…



全体での改善は限定的

全業務プロセスを見据えたパーティカルAIエージェント導入

全業務プロセスの60%にパーティカルAIエージェントを導入し、20%改善すれば…



大幅な効率化が可能